

# 新 知 故 温

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(4) 平成12年7月1日

明治初期の啓蒙書(その4)

## 輿地誌略(291/406, 290.8/頁)

明治初期の代表的な地理の教科書。著者の内田正雄(1838~1876)は江戸生まれの幕臣です。内田は1863(文久3)年から1866(慶応2)年まで足かけ4年間、オランダに留学し、そこで各国の地理の資料を集めました。本書はこれらをもとにして編集された本格的な世界地誌です。各府県で数千部単位で印刷され、小学校や中等学校の教科書として使われました。また、一般国民への啓蒙書としての役割も果たし15万部以上が流布しました。

全体は4編11巻(12冊 巻11巻だけが上下2冊に分かれている)から成っています。明治3年の第1篇・巻1~3の刊行から明治10年の最終巻の刊行まで、完成までに8年の歳月を要しました。残念ながら内田は巻9までを刊行したところで死去し、全巻の完成を見ることはできませんでしたが、友人の西村成樹がその後を継いで完成させました

以下、内容の構成を簡単に紹介します。

まず巻1で世界地誌の総説が述べられます。地球の形、運動を挙げた後、五大陸の存在、地球表面の形、海水の運動、大気、気候などについて略説しています。次に人口、人種、言語、文字、宗教、衣食、さらには世界歴史の概略が述べられています。巻1の後半から最終巻まで、大陸別に各国の地誌の説明が続きます。それぞれ、位置や地勢について述べた後、政治や産業、文化など国の様子を明らかにする記述が続いています。また、歴史についても必ず記述があり、その国の沿革がわかる工夫もされています。全巻に渡る豊富な挿絵も特徴の一つでしょう。

本書は明治の初めに出版された世界地誌の中で最も広く国民に受け入れられたもので、内田の『輿地誌略』といえば世間から地誌の代名詞のように考えられたほどでした。『西洋事情』、『西国立志編』と並んで「明治の三書」とよばれています。

当館では本書を2部所蔵しており、いずれも12冊完全に揃っています。

【参考資料】 日本教科書体系 近代編 第15巻 (375.9/118)